

「陸・海・空・宇の交通運輸を支える」

担当教員名 北川 徹哉

コース概要

日程	2016年8月31日, 9月1, 2, 5日
場所	東京都, 神奈川県, 茨城県
参加人数	25名

コースのねらい

社会と経済の基幹である陸上, 海上, 航空の交通運輸を支える維持, 製造, 調査研究の第一線の現場, そして地上と宇宙とを結ぶ重要施設を訪れます。業務の魅力と重責を肌で感じましょう。

内容

行程1日目は, 日産自動車追浜工場を訪問しました。工場内では声を直接聞くことは困難なため, 無線ヘッドセットを装着して案内を聞くという方法は画期的でした。部品搬送ロボットが動き回り, 製造ラインにはガソリンエンジン車だけでなく, 電気自動車“リーフ”も多く流れていました。また, 専用埠頭では製造された自動車が巨大な輸送船に搬入されていました。2日目に訪問したのはANA機体メンテナンスセンターです。ANA機体メンテナンスセンターは羽田空港の一面にあり, 周囲には航空各社の重要施設が建ち並びます。広大なドックに入るとスターアライアンスの機体がドック入りしており, その周囲を取り囲んだ整備用足場の上で整備士の方々が作業していました。安全で円滑な運航と乗客の命にかかわる重責と緊張が伝わってきます。また, ジェットエンジンが分解整備されていたり, すぐ外の滑走路では航空機が轟音とともに離発着しているなど迫力満点です。3日目は, 久里浜にある港湾空港技術研究所を見学しました。久里浜付近はかつて黒船でやってきたペリーが日本に開国を迫った地です。港湾空港技術研究所では, 海上と航空の交通運輸の玄関である港湾と空港に関する実に様々な研究が行われており, 参加学生が特に楽しみにしていたのは津波造波実験施設です。残念ながら実験準備中のため, 実際に波を発生させるところは見ることはできませんでしたが, 施設の巨大さは圧巻でした。そして, 4日目は筑波宇宙センターを訪れました。通信, 測地, 資源探査などの各種の衛星や, 国際宇宙ステーションでの生活を想定した閉鎖環境や低圧環境への宇宙飛行士の適応訓練設備などを見ることができました。宇宙飛行士の採用の最高倍率は平成20年度募集のときの321倍とのこと。また, ロシアの宇宙船“ソユーズ”の帰還カプセルが展示されており, 宇宙空間という極限環境から地球へ帰るための生命線ということを実感するものでした。

学習を終えて

参加学生の感想です。「普段は立ち入ることも見ることもできない施設を視察でき, とても感動しました。安全で円滑な交通運輸は, 多くの人々の舞台裏での地道な活躍と高度なテクノロジーによって支えられていることを楽しく学びました。」



筑波宇宙センターにて



日産自動車追浜工場にて



ANA機体メンテナンスセンターにて



港湾空港技術研究所にて